

## 答 辞

冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じさせるこの佳き日に、私たち222名はこの白岡高校を卒業いたします。本日はこのような心のこもった卒業式を挙げてくださいました皆様に卒業生代表として深くお礼申し上げます。

思えば3年前、慣れない制服に身を包み期待と不安を胸に参加した入学式から早3年の月日が流れました。そうした中で、私は生徒の代表でいられるかという不安、常に模範でいなければならないプレッシャーを感じることもありました。しかし、生徒会の仲間や友だちに支えられ、私はこの役職を全うすることができました。3年間生徒会でできたことは、私の中で大切な一つの思い出となっています。私と同じように卒業生の胸には十人十色の思い出があり、物語があるのだと思います。一人ひとり経験してきたことは違っても、この白岡高校で学んできたことは皆一緒です。礼儀や挨拶、身だしなみをしっかりして人を大切にする。これは、皆が優しく、落ち着いた雰囲気の中での白岡高校であったからこそ、身についたことです。この学校で学んだことは、これからの進路先就職先で必ず役に立ちます。そして、一人の人間として、社会人として、さらに成長していけるよう努力していきます。

今、3年間の高校生活を思い起こしてみますと様々な出来事が蘇ってきます。特にクラスや学年を越えて盛り上がった学校行事は、私だけでなく卒業生全員が思い出深いものになっています。体育祭では、メンバー決め時から優勝を見据えた一人ひとりの真剣な眼差しを覚えています。予選に日からチーム一丸となって全力を出し、予選以上に活気と熱気にあふれた当日は、声がかかるほど応援し、チームの仲間と共に喜びと感動を分かち合うことができました。そして、私の中で最も印象に残っている文化祭では、3年生最後ということもあり、クラスの皆が協力し合い今までにない最高のものを作ろうと努力しました。私たちのクラスは「ジブリ」をモチーフとした作品でした。作品決めから始まり決まってからは構造や設定を考え、時には友人との衝突もありました。しかし、一人ひとりの分担をやり遂げ、でき上がった私たちの世界。どんな困難な壁も助け合い、乗り越えてできた私たちの世界。それは、このクラス、この仲間と出あったからこそ創ることができた、世界でたった一つの本当に素晴らしいものになりました。他のクラスの作品も私たちの手で、自分たちの世界観を創り出すことができたのではないのでしょうか。そしてそれは、先生方に頼りっぱなしだった一年生の時とは全く別のものであり、私たち成長の証でもありました。結果はどうで

あっても、それ以上にクラスの「絆」と「団結力」を得ることができたからこそ、今こうして全員が笑顔で卒業を迎えることができたのだと思います。

一つ一つの行事が終わるとともに、私たちの胸には「卒業」という二文字が浮かんでくるようになりました。学校生活を振り返ってみると私の周りには常に友人の明るい笑顔がありました。辛い時には励まし合い楽しい時には声を出して笑う。そんな当たり前の日々が私にとってとても幸せあり、かけがいのない一生の宝物です。これから皆が進んでいく道はそれぞれだけれど、この「絆」は絶対に揺らぐことはありません。

「みんな今まで本当にありがとう」

在校生の皆さん。皆さんにとって私たちは常に目標となるような先輩でいられたか。自分たちが先輩としての役割を果たしているのか、と不安になった時もありました。そんな時でも皆さんは、自分たちを信じ頼ってくれました。だからこそ、私たちは、先輩としての自覚を持ち、自信をつけることができました。とても感謝しています。私たちは今日、白岡高校を皆さんに託します。様々な出合いを大切にし、悔いの残らぬ生活を送ってください。応援しています。

そして、私たちが今日という日を迎えることができたのは、いつも変わらぬ熱心なご指導して先生方。今まで暖かく見守ってくれた家族のおかげです。

普段の授業で、部活動で、進路指導で親身になって私たちを手助けして先生方。三年前、まだまだ未熟であった私たちはどこまで成長することができたでしょうか。先生方からは直接授業で教わったことだけでなく、生きていく上での知恵、人生の先輩としても多くのことを学ばせていただきました。時には素直になれないときもありましたが、それでも根気強く、厳しくも温かく私たちのためにご指導ことは忘れません。先生方から教わったことを今後の人生の糧にしていきたいと思います。

そして、十八年間、どんな時でも一番近くで見守ってくれた「お父さん」「お母さん」。私たちがまだ幼く手を引かれて歩いていた頃のことを覚えていますか。そんな私たちも今日、卒業という日を迎えます。私が今、家族にできることは多くはありません。これからもっと勉強して、社会に出てたくさん親孝行できるよう努力していきます。いつか私が家族を支える存在になります。それまでもう少し待っていて下さい。「今まで本当にありがとうございました。」

人は一人で生きていくことはできません。家族、先生方、友人に支えられ、私たちはここまで歩んでくることができました。この白岡高校との別れを思うと淋しい気持

ちになります。しかし、私たちは一歩一歩道を作って進んでいかなければなりません。  
前を向いて力強くそれぞれの夢と希望に向かって歩んでいきます。

最後に本日私たちの卒業式にお忙しい中ご列席ご来賓の皆様、校長先生をはじめとする諸先生方、在校生の皆さんそして保護者の方々に感謝申し上げるとともに母校のますますの発展をお祈りして答辞といたします。

平成27年3月12日

第36回卒業生代表 鈴木嵩大